

## 長野県食と農業農村振興審議会長野地区部会議事録

### 1 日 時

令和5年7月12日(水) 14:00~16:00

### 2 場 所

長野合同庁舎 501~502 会議室

### 3 出席委員

関 博文氏 (長野県農業経営者協会 長野支部長)

久保真弓氏 (長野県農村生活マイスター協会 更埴支部長)

北澤篤史氏 (長野県農業士協会 上高井長野支部副支部長)

小池宏明氏 (ながの農業協同組合 常務理事)

市川幸彦氏 (豊野町土地改良区 理事長)

金木政子氏 (長野県農業委員会女性協議会 長野支部副支部長)

米倉美樹氏 (生活協同組合コープながの 北信地域区分理事)

和田孝久氏 (株式会社 R & C ながの青果 営業本部 副本部長)

柴田洋一氏 (千曲市経済部農林課長)

### 4 次 第

(1) 開 会 (長野農業農村支援センター 所長 西沢滝太)

(2) あいさつ (長野地域振興局 局長 尾島信久)

(3) 議 事 (議長：部会長 小池宏明)

ア 第3期長野県食と農業農村振興計画 令和4年度長野地域の取組実績について

イ 第4期長野県食と農業農村振興計画について

ウ 令和5年度長野地域実行計画について

エ 意見交換

(4) 閉 会 (長野農業農村支援センター 所長 西沢滝太)

### 5 意見聴取

#### 〈小池部会長〉

事務局から説明のありました「令和4年度長野地域取組実績」「令和5年度長野地域実行計画」について、それぞれの皆さんから感想でもかまいません。御意見・御質問をお願いできればと思います。

それでは、関委員さんの方から順番でお願いいたします。

#### 〈関委員〉

栽培者数が達成指標にあるが、私が子供の頃は、父親世代はほとんど農家だった。世代が替わるごとに、徐々に周囲の農家が減ってきた。自身が就農する時点でも減ってきていた。そろそろ私たちの子供世代が就農する時期になっているが後継者としてやる人はやはり少

ない。その分、Iターンとか、長野県で農業をやりたいという新規参入者は増えている。

りんご高密度植は、自身もチロルに行き、県でも推奨し実行しているが、年により生産不安定で決して順調ではない。また施設費がかさむ、台風などに弱いこともある。長沼は地下水位が高く、高いと枯死も多い。新わい化や高密度植にこだわらず、どんどん色々な技術を進めることが必要ではないか。半わい化もよいのではないか。自分もマルバ/JM7の半わい化を試行している。

### 〈久保委員〉

はじめて参加しました。農業は結婚してから携わるようになって、非農家からお嫁にきて全く知らない状態だった。今はどっぷりと農業者になっている。

マイスターとして食農計画の存在は知っていたが、改めて細かく読み込み、しっかりした計画を立てていると実感。

だが周囲を見ると、本当に農業を辞められていく方が多く、離農は後を絶たない。個別で(1軒で)農業を継続という事例が多く、辞めていく農家の農地を集約して、大規模にしていくとう方法が考えられる。関心があるがどう進めればよいか、わからない。手を挙げるには勇気がある。むずかしいと感じる。

食のことで、小学校のクラブ活動、公民館の郷土料理講習などで携わっているが、小学校に教えに行くと、子供は「家で食べたことがない」「おばあちゃんはつくるが、お母さんはつくらない」との声があり、お母さん世代に更なる推進が必要ではないか。

### 〈北澤委員〉

初めて参加します。このように細かく長野の農業について考えたことはありがたい。私は駒ヶ根市から来て農業を初めて10年、子供も3人目が生まれてがんばりたいが、色々不安もある。空いているハウスを借りて、面積を増やして今がある。家族は他に努めていて、労働力はパートでまかなっている。資材はあがるが農産物価格に反映できずにいる。トマトを通年で栽培し、販売方法は、直売所出荷主体に経営している。

自身は、たまたま農業に興味を持ち、たまたまハウスを借りられて、たまたま直売所が近くにあった、こうした環境があり農業で生計を立てられている。だが今後もっと稼ぐには直売所以外にも販売を広げたいが、人口減少の中では輸出を視野に入れる必要があるのではないか。野菜は輸出が可能かわからないが、検討していかなければならないのでは。

### 〈西沢所長〉

野菜の輸出は、南佐久のレタスなどで輸出したが、やはりコスト等を見ると合わずに現在には行っていない。

今後は、加工品含めての輸出は可能性はある。

県としても輸出拡大に力を入れているが、金額は右肩上がり。品目はぶどう、もも、米、

花を重点品目としている。重点輸出地域は台湾、香港、シンガポールなどである。

#### 〈市川委員〉

新計画はすばらしい内容、それが実行できれば長野県の農業の未来は明るいだらう。

土地改良区の現状の話をしたが、とにかく高齢化になっている。この実状では目標達成は厳しいと考える。

概要版 p 6 のエグゼクティブ経営者育成に、リタイヤ農家の受け皿をつくとあるが、具体的にはどうするのか？なかなか広まっていけないのも現状。

農地を維持するための受け皿について具体的なものがあれば教えて欲しい。

#### 〈西沢所長〉

一般論だが、規模拡大する者は法人など大きな経営をしている。近年そうした者が、米など土地利用型は「もうキャバがいっぱい」、条件不利地はあまり借りられないとの声を聞いている。

本冊 p 30 からは、地域計画の策定を推進と紹介している。委員各位も聞いたことがあるだろうが、まず地域でしっかり話し合っ決めて決めることが必須。法的に定められ、農業委員主体に苦勞しているところだが、地域としてどう農地を守っていくか話し合うということが国の方針で決まり、各地でスタートしている。

今後市町村、JA などからアンケートなどで意向調査等があると思うが、そういう機会を通じて、農地の有効活用、地域とどうしていくか話し合っていただきたい。県としてもしっかり一緒になって取り組んでいく。

#### 〈小池部会長〉

皆で話し合うことが必要である。

#### 〈金木委員〉

小川村の農業委員も地域計画ということで 2 か月ほど前から、アンケートを取り始めている。10 年後の農業をどうするか。地図上に 10 年後に誰がどこで何を作るかの取り組みを始めた。

自身は直売所を 20 年前、加工所を 10 年前に立ち上げたが、どんどん状況が変わっている。例えば梅、以前は梅の生育に合わせて収穫していたが、ここ 4 年くらいは人足が集まったら収穫ということで、梅を調達するのが大変である。JA や高齢者にお願いしてなんとか梅を集めている状況。いま飲食店では漬け物は自家で行わない傾向なため、需要があるので続けていきたいが原料が集まらない。必要なものをなんとか協力して、集められるようなしくみをつくって欲しい。

### 〈小池部会長〉

地域計画も動いてるし、小川村さんでは公社も動いている。JAとしても検討したい。

計画には環境にやさしい農業の推進もある。資料2の中に達成指標もあるが、消費者の視点から意見をいただけないか。

### 〈米倉委員〉

学校給食で有機農産物というのはたまに見かける。また計画にも学校給食での県産農産物利用割合向上というのは、保護者としてありがたい。だが自身はそうした意識があるが、一方で地域の食文化に興味がない親世代がいることも事実。小学校、中学校、幼稚園等がそれぞれの場所で、地元の方とともに精力的に食育について取り組んでいることを感じる。

だが、例えば小学校の農作業体験では、地元の方の方が指導してくれるが、小学校からの呼びかけは「手があいてる親御さんのみ参加をお願い」と言われ、どうしても参加数は少ない。子供がどんな形で地元の方とどうかかわっているか知らない。保護者の意識が地元農業に対しても薄い。どう解決すべきかわからないが、課題である。

私の周囲を見ても、コープやスーパーの産直コーナーに興味がある人もいるし、興味のない人もいる。親世代が地元の農業を意識しないで、子供だけが意識することはない。家庭にどう伝えるかが大切なのではないか。いくら教育の場で大切さを訴えも、家庭での意識づけが大切。何か良い方法はないか。

コープながのでは産直学校などをやると、参加者は多い、何か家庭に伝えるよい方法はないかと考えている。

### 〈小池部会長〉

難しく現実的な指摘、色々なことをしていくしかない

広く声掛けをしていくしかない

### 〈和田委員〉

先日中学校の同級生が集まり、農業従事者とも話をしたが、農業現場は色々な意味で狭まってきている印象を受けた。

市場目線では、昭和50～60年代は農産物をつくれれば売れる、荷物を集めれば売れる、という一番良い時代だった。つまりプロダクトアウト。現在はマーケットインの時代。市場としてはマーケットインさせるための産地づくりを考えている。

食農計画を見ると、似て非なるものかもしれないが市場としても同じように計画をつくっているが、できずに困っているのが実態。どのように実行していくか市場も暗中模索している状態。市場としても一緒にこの計画を読み込み考えていきたい。

いずれにせよ、ただ販売するだけでは市場は成り立たない。収穫を手伝う市場、よい苗を

配布する市場も出ている。小さいことだが、市場としてもやっている。今後、市場の開発部にも計画をつなげて、一緒に考えていきたい。

#### 〈柴田委員〉

この4月から赴任したばかりだが、少子高齢化という国全体が抱える課題の中で、農業を続ける困難さを痛感している。

やはり儲からないと農業をやらないだろう。千曲市としても販路拡大のお手伝いをしている。値上げは農業以外では当たり前だが、農作物も値上げ必要では。消費者に負担を強いるかもしれないが農業を維持するためには必要ではないか

#### 〈小池部会長〉

農作物への価格転嫁について、支援センターからコメントを求めたい

#### 〈西沢所長〉

これだけコストがかかっている、ということも数字として県民に国民に示していくことが必要ではないか。

#### 〈小池部会長〉

食と農業農村振興計画としてはよい、ただ、市川委員指摘の通り、どう実行していくべきかJAとしても課題だと認識している。かなり汗をかく必要があるだろう。

人口減少は大きな問題、長野地域は人口が県の4分の1というが、中心部には人がいるが周辺は人が少ないのが実状、周りの山間部には第一次産業に携わっている人が多く、結果的には農業の衰退傾向が実態である。

小川村の地域計画の話があったが推進は必要、場合によっては荒らしておくべき地区も必要と個人的に考えている。反対にこの農地は絶対に残していかなければならないというマッピングが必要。

質問だが、新聞にも出ていたが、概要版p6のエクゼクティブ経営者育成の実状を教えてください。それはどんな経営体なのか、教えてください。

#### 〈西沢所長〉

細かいデータを持っていないが、令和4年度から開始。売上10億円をめざす経営体。受講者は10名弱と一桁。かつてトップランナー研修を受けた方で、長野県内の有名な法人の若手経営者が主体で品目は集中していない。やる気のある若手の経営者が集まっている。講師は外部講師を委嘱している。

#### 〈小池部会長〉

他、皆さんから御意見、ご質問があれば。

#### 〈米倉委員〉

市民農園の存在を、もっと市民に知らしめてよいのでは。知らない者が多いのではないかと。気軽に参加でき、プロ農家から指導を受けるような試みがあってもよいのではないかと。

#### 〈西沢所長〉

例えば長野市でいうと、市民農園制度は長野市役所で所管している。広報などで募集している。

そうした方々へ施策のアプローチをしたことはない、ありがたい視点であるので、検討していきたい。今後の参考にさせていただく。

#### 〈関委員〉

40年前の就農時と気候が変わっている。春と秋が不明確。りんごはかつて長野は栽培の南限と言われたが、長野市平坦部は不適地になりつつある印象。せめてふじは11月収穫なのでよいかと思っていたが、令和4年は高温できびしかった。

就農後りんごしかなかったが、借地が多くなってきて、6月からほぼぶどう以外の品目を作っている。葉つき、玉まわしをしなくてすむ品種を模索した結果、色々な品目を作るようになった。

りんごがとにかく作りづらい、シナノリップも温暖化対応品種とされたが気候によっては色が着かない。

先日、市の農林部と話したが、ヘーゼルナッツに着目していると聞いた。

とにかく、長野市平坦部はりんごでは厳しいと実感、若手でりんご再生のうごきもあるが……。標高600m地帯ではりんご継続できるだろうが、若穂の山新田での造成も今後成功すればモデルとなるだろう。鳥獣害のリスクはある。

そうした気候変動に係る事項も計画に盛り込んでいただきたい。

#### 〈中澤課長〉

指摘に感謝、検討したい。その前に5年かけて、リスクヘッジを若手農家とともに考えていき、反映させていきたい。

#### 〈小池部会長〉

委員の皆様、全体を通していかがか。本日は、令和4年度の実績、新計画の取組計画に対し、御意見をいただき誠にありがとうございました。

県の審議会にも本日の意見の報告をよろしく申し上げます。

委員の皆様には貴重な御意見、御提言を頂きありがとうございました。以上をもちまし

て、議長を退任させていただきます。